

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

「勤怠管理システム」の導入・選定におけるポイント

2021年に㈱日立ソリューションズが行ったアンケート調査によると、勤怠管理システムの選定に関しては、クラウド型システムを選ぶ企業が多いことが分かりました。

ひとくちにクラウド型の勤怠管理システムといっても、その内容、機能、使い勝手はさまざまで、自社の状況に合わないシステムを導入したため、苦労しているといったケースもゼロではないようです。

例えば「コロナ禍によってテレワークが増加し、急いで

勤怠管理システムを新規導入しなければならなかった」という企業は、多種多様なシステム／サービスの比較検討に十分な時間を割けなかった恐れがあります。

アンケートの1つ「勤怠管理システムを導入してから気づいたこと（導入前には気づかなかった重要な点、失敗に感じている点や改善点など）」についての回答を見ると、やはり“望んでいるものと、導入した勤怠管理システム”には少なからずギャップがあった様子が見えます。

勤怠管理システムを導入してから気づいたこと

運用の難しさについての問題点

- システムの導入時に勤怠管理の運用も変えるべきだった。無理やり自社の運用をシステムに当てはめたため無理が生じている。
- 打刻方法が限定されていたり、給与システムと紐づけできなかったりなど、予想以上に連携できなかった。

導入後のサポートやメンテナンスについての問題

- アフターサービスが充実している事業者を選択すればよかった。
- サポートの対応が悪い。
- 運用面でのサポート力が弱い。
- 導入当時には想定していなかった分析業務への対応力が課題。
- マスターデータのメンテナンスが煩雑。

システムの拡張性についての問題

- 残業時間の合間の休憩時間を設定できないなど、個別の事情を汲んだ構成にできない。
- 勤務形態や労働時間帯の変化などに応じて、メニューや表を追加・修正する必要が出てくる。
- 自社の就業規則が他社に比べて複雑であったために、当初の想定よりカスタマイズが多く発生した。

制度への対応についての問題

- 法改正や就業規則の改正に速やかに対応できない。カスタマイズの手間や費用が発生する。
- 社内制度の改定にシステムの改定が追いつかない。

使いやすさについての問題

- 操作性が悪い。
- デザインが洗練されていない。

勤怠管理システムの導入を検討中であるなら、こうした意見を参考に、“システムの拡張性や対応力があり”、“自社の実情に合った機能を備え”、“インターフェースや使い勝手に問題ないか”等について確認するべきでしょう。

とりわけ重要なのがサポート体制。寄せられた回答を見ると、技術的なサポートとは別に、運用・管理面に対する広範なアフターフォローを重要視している企業が多いです。「勤怠管理システムの導入後どのようなフォローを希望するか」といったアンケート結果を見ると、「法改正情報の発信」を希望している企業も多かったです。

当社も5年前にクラウド型の勤怠管理システムを導入しましたが、当社が導入したシステムではメールや電話でサポートをして貰える点に満足していて、画面共有で設定画面を直接確認して貰えるのには助かっています。

上記のアンケートで言うと、「システムの導入時に勤怠管理の運用も変えるべきだった。無理やり自社の運用をシステムに当てはめたため無理が生じている。」「マスターデータのメンテナンスが煩雑。」という点は痛切に感じています。シンプルにシステムを活用できるようにシステム導入時に自社の勤怠について見直してみるのもポイントとなるかもしれません。また、マスターデータのメンテナンスは確かに複雑で設定に手こずることは多いです。そんな時こそサポートセンターに電話をして確認を手伝って貰っていますので、やはりサポート体制の確認は重要なポイントかと思えます。

加えて言いますと、各種申請ミスが多く社員が正しく理解するまで時間はかかります。随時、操作説明等の対応も求められることになると思います。